



市民がつくるまちづくり情報誌 コミュニティくさつ

2008年
夏号



小槻神社の茅の輪

一年に2回行われる「大祓い」は日ごろの罪や穢れを除き清める神事で、茅草で作った輪を八の字に3回くぐり穢れを清めます。また夏越し祓いはいらうに小豆をのせた和菓子「水無月」を食べる習慣があります。いよいよ夏本番です。(撮影/大條紘史・2007年6月の写真です)

かんばるひとは
かがやいています

何の花かな？

梅雨の明けるころ丸くてみずみずしい実がなりますね。(答は裏表紙)



内容~コンテンツ~



- ②伝えたいもの 置職人 中村明雄さん
- ④ホテルは人の暮らしのパロメーター
草津でホテルを楽しむ会代表 鈴木道弘さん
- ⑥キーワードは3 とらいあんぐるの代表 山元陽子さん
- ⑧俳句散歩「夏」
- ⑨動植物から学んで素敵なヒトになろう
- ⑩ゆっくり草津街道物語⑥「篤姫と草津宿」
- ⑪ひとまちキラリまちづくり活動提案
- ⑫お知らせ



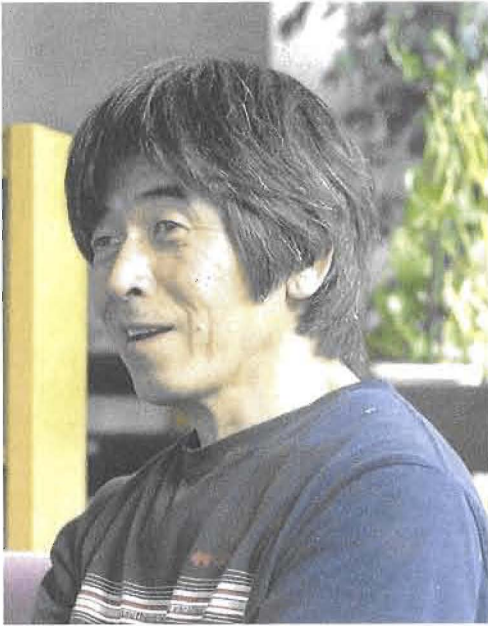
伝えたいもの

畳職人 中村明雄さん

本誌にいつも、味わいのある絵と字、言葉を添えてくれる中村明雄さんは実は淡川の畳職人さんです。話は子どもの時から始まります。

「仲間といっしょ」の少年時代

親に勉強しろなどとと言われることのない時代ですから、毎日トンボ取り、川や池での魚捕り、缶けり、かくれんぼ、鬼ごっこ……と自由奔放な暮らしをしていました。夕方になると、そのころ放送が始まったテレビを見るため、お金持ちの家へ駆けつけました。その時はいつも仲間と遊び方を考えたり工夫したりして遊



んでいました。その時の『いつも仲間といっしょ』というのが、その後の私の生き方を決めたとように思います。

暮らしのリズムを引き継ぐ

私の家の仕事の半分は農業、半分は畳屋で、牛も飼っていました。毎日の暮らしをこなしていかななくてはならない時代でしたから、子が家の仕事を手伝うのは当然だったので、まさか自分が畳屋になるとは思いもせず、父親の仕事を手伝っていました。そのうち『畳屋になる』というよりも、父親の暮らしのリズムを引き継ぐような感じで『畳屋を継ぐ』か……と思うようになっていきました。

当時、私の家は田んぼをやっていたし、私も青年団に入って地元で伝わる花踊りを教えてもらうなど、村や地域との結びつきも強く、会社や官庁に勤めるより面白いかもしれないなどと思っていました。

畳屋の仕事は畳の引取りや納品から始まります。当時は川の堤防や鉄道の堤の坂がきつくて、荷物を載せた大八車を押すのに苦労しました。畳を作り始めたのは20歳過ぎです。職人になると毎日仕事があるので、こなすのに必死でした。しかし仕事を教えてくれる人はなく、一人で練習して覚えていくしかありません。た

くさんの職人に混じって仕事をすることもありましたが、先輩たちの仕事の早さに焦りました。また、これまで作ったことのない坊主畳というへりのない畳を作りされることもあり、困ったこともあります(笑)。

変わってはいけない完成品

稲作地だった滋賀県で、稲わらで畳床たたみどこを作る人もたくさんいました。かつては淡川でも2軒、大略、本町、東草津などで10軒あまりありましたが、現在は5〜6軒になってしまいました。昔は稲わらを干したり、配達したり、貨車から運ばれてきたわらを取り出すというような仕事も多かったのです。

現在は洋風建築や高層住宅が増えて一軒当たりの畳こそ少なくなりましたが、住宅がたくさん建つので需要は随分あります。マンションであることが、一戸建てであろうが畳があるのは、畳に寝転がるというラックスするからです。農産物である畳が心に安らぎを与えるからでしょう。

畳は稲わら、い草、麻といった農産物による加工品で、平安あるいはそれより以前から使われ、改良に改良を重ねてきたものですから、これ以上変わることのない、変わってはいけない完成品です。

先祖からのプレゼント

畳にはい草を使います。一本ごとに太さも色も違うので、それを織れば波打つなどリズムが生まれます。畳を美しく感じるのには素材が優れている証拠です。残したいと思うのは、何千年もの歴史をもつ本



人は古くから自然の素材を使って暮らししてきました。いまの暮らしのなかで活かしているもののひとつに畳があります。でも畳に限らず、このような存在を日々の暮らしに増やしていきたいものです。(中井徹)

物だからこそ。私が小学校の児童の前で畳作りを見せているのは先祖からの貴重なプレゼントだということを知ってほしいからです。

伝承という形で今の仕事や技が未来に続いていくことは大切です。私たちの暮らしの中にはたくさんのおもしろい伝承があります。それは先人たちが後世に伝えたいと残してくれたから。この思いは現在の渋川の花踊りや畳文化にも息づいていて、私はそれを味わえる幸せを感じています。」滋賀県にも草津にもよいところがある」と語る人になりたいし、それを味わえるきっかけになるものを作っていきたいと思っています。

思わずホッコリ… 畳職人が語る「タタミ」の世界

取材前、サービス精神に満ち溢れた(笑)畳職人、中村さんはなんと取材場所のまちづくりセンターに畳と大切な道具を持ってきてくれ、実演をしてくれました。職人さんが使い慣れた道具で、手際よく作業をしていく「技」の世界はやっぱり美しい。しかもカッコイイ！作業をしながら中村さんが教えてくれたタタミのこと、畳職人のこと、少しだけおすそわけです。今日は思わず畳でホッコリしたくなるのでは？

畳は「表・床・へり」でエコ！

畳を構成するのは「畳表」「畳床」「畳へり」でできています。い草はこの畳表に使われます。畳職人さんがこの3つを針と糸で組み合わせることから「畳職人は針仕事」と言われるそうです。ダメになった部分だけを裏返ししたり、取りかえたりできる畳はエコでもあります。ちなみに畳職人といえば、畳を肘で押えて針と糸で縫っている姿を連想する人も。これは畳にへりをつけている作業。

JASとJIS

本文でもでてきましたが、畳はすべて、い草、稲わらといった農産物でできています。だからそれぞれの部位は農林水産規格であるJASマークがつけられます。これに土台(畳床)がつき、製品となれば、工業規格のJISにかわります。なんだかおもしろい。

道具と手づくり！

畳職人にとって、材質とともに大切なのが道具。用途に応じたいくつものハリや糸、畳をクルッとまわすための台まで…畳を切るための包丁などは、なんども研いで使うので、いつの間にかちっちゃんちっちゃんになるそうです。実物を見せてもらいましたが、「ほんとにこんなに小さくなったの？」と思わず驚かずにはられません。長年使うことで道具が手になじむとともに、職人の手ができるそうです。職人にはこの手づくりが大切なんだと教えてくれました。

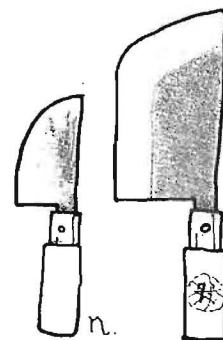


イラスト 中井徹

ホタルは人の暮らしのバロメーター



草津でホタルを楽しむ会 代表 鈴木道弘さん

センチメンタルなものに憧れる

「環境活動は楽しくないとダメ。豊かで便利な生活を辛抱することになるけど、その辛抱の向こうには楽しいことが待っているんです。ホタルの光を楽しんだり、川遊びだったり…この楽しさがなければ多くの人には伝わらないと思います。楽しみながら環境がよくなる。その結果、自然が残ればうれしい。」

「草津でホタルを楽しむ会」代表の鈴木さんは現在64歳、ホタルの飛び交う初夏には毎日のようにホタルの光を求めて仲間とともに川や田んぼに出かけます。このときばかりは好きなビールも我慢です。生まれも育ちも東京の鈴木さん、今では滋賀での生活のほうが長くなり、「滋賀で骨を埋めるつもりです。(笑)」と話されます。



現在の活動を始める根底は子どもものころの記憶があります。「小田原に母の実家がありました。子どもころ、夏に帰ると、いとこと遊んだりして楽しかったなあ。富士山が見えて、山があつて川があつた。川の洗い場ではスイカを冷やして食べた。おくごさん・お盆のときにつくったナスやキュウリの馬・もちろんホタルも…。田舎に憧れていた僕の夏のイメージです。どうも僕はセンチメンタルなものに憧れるんですね。」

自分の何かを伝えたい

仕事をしているころは自分の地域のことを何も知らなかった。僕の地域デビューは退職するころに地域の役員をしたことがきっかけです。それから『みどり会』という地域の道路保全活動に誘っていただいた。仕事のころの肩書きもない世界で住民同士、一緒に汗をかきながら

地域での居場所を感じたものです。また仕事でアクセクしていたころには見えなかった身のまわりにある自然、そつと咲いている草花にも気づきました。仕事をしていたころは余裕がなくて気づかなかつた魅力です。

ちよつとそんなころ、孫が生まれました。子育ては妻に任せっぱなしだった僕も、孫には自分の何かを伝えたいと思つたんです。そこに子どもころのセンチメンタルな思い出も手伝つて、ホタルを求めて地域の川をめぐり夜の探訪が始まりました。そして地元で一匹のホタルの光を見つけたんです。うれしかった。この感動が『草津でホタルを楽しむ会』をはじめるときかけとなりました。まさに環境を考える仲間がいてくれたのも幸せでした。



ホタルは暮らしのバロメーター

ホタルを楽しむ会の活動は社会貢献なんて大層なものではなく、仲間ができてみんな楽しんで、まったくのおじさんの遊びです。ホタルを保護したり遠ざけたりするのでなく寄り添って欲しいから、名前も『ホタルを楽しむ会』にしました。

おじいちゃんやおばあちゃんとお孫さんが一緒に初夏の夜にホタルを楽しむ姿がいいですね。ホタルは弱い虫のイメージがあるけれどそんなことはありません。環境に一生懸命順応していることとする強いものだし、人の生活のすぐ近くにいます。

人里近くで、人の生活に寄り添うことで種を保存してきました。だからホタルは環境のバロメーターじゃなくて、私たち人間の暮らしのバロメーターだと思う。ぜひみんなでホタルを見に行ってください。きっとホタルも喜んでくれるんじゃないかなあ。

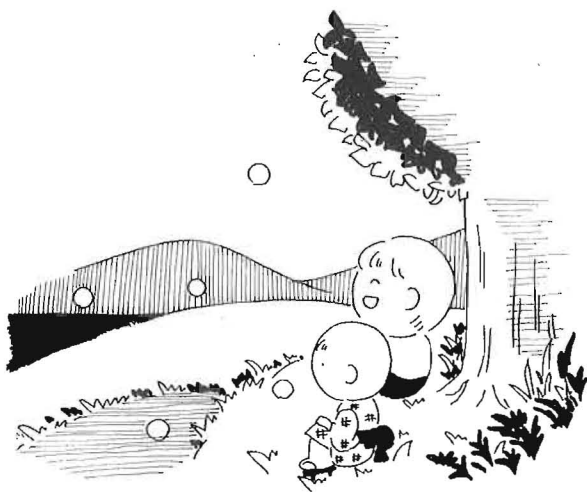


写真 大條紘史 イラスト 大村恵

「これからの草津について」

草津が『ひとの個性、まちの個性』がなくなっていくのはつまらないよね。昔ながらの生活文化を楽しめたり、自然と触れあえたりといったことが、いつまでもできるまちでいて欲しいなあ。もちろん初夏にはホタルを楽しむまちになってもらいたい(笑)。

ホタルを楽しむ会は現在、駒井沢町にある湧水池の浅池で、地元地域の皆さんとホタルが飛び交うための池づくりに汗をかいています。今日も「遊び」に集まったおじさんたちの笑い声が聞こえます。

(茶木修一)

この木・なんの木？

郵便の木

草津市の花はアオバナ、市の木はキンモクセイを指定しています。では、郵便のシンボルとなる木は…？

答は常緑樹のタラヨウ。葉っぱの裏に字を書くことができる植物で、渋川の草津郵便局にあります。葉の長さは大きいもので20cmくらいあります。

通信手段として普及しているケータイやインターネットがない時代、用件を伝えるひとつの方法「葉書き」もこれで納得？ 切手を貼れば本当にハガキとして使えます。





昨年、食を通して心と体の健康づくりのお手伝いをしたいと、山元さんたち草津・栗東・守山・野洲在住の栄養士・管理栄養士15人が集まりました。グループの名前は“とらいあんぐる”。

公民館や学校などを会場にさまざまな年代、グループ、目的に合わせた食育講座や料理教室、栄養相談などの事業に携わっています。

栄養と運動と休養、主食と主菜と副菜、必要栄養源の目安となる赤・黄・緑色の食物など、さまざまな三角形(トライアングル)をイメージにその音の心地よさと広がり期待してのネーミングです。

キーワードは3

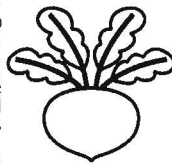
とらいあんぐる

とらいあんぐる代表

トライアングルさん

赤ちゃんあかちゃんの離乳食に悩む若いお母さん。小学校では、「うちの子どもに好き嫌いはありません」という保護者の話の裏には好きなものしか作っていない事実があったり。食事にとっても気を使う高齢者も食を楽しむことや、一人暮らしになったときのことなど、どの年代も食に関する課題を抱えています。健康への関心とともに栄養士への期待も高くなっていると言えます。

忘れられない言葉



「仲間と活動を続ける中、お世話になった恩師からいただいた言葉が忘れられません。『栄養士はたんぱく質やビタミンなど栄養の話をするけれど、毎日、口にしているのは肉や野菜であることを忘れてはいけない。』専門的な立場からしか物事が見えなくなっ

てはいけないということだと思えます。」と山元さん。
「本に書いてある知識だけを伝えるのではなく、一人ひとりの思いに寄り添いたい。私も幼いころは丈夫ではなかったから、生まれながらの体質や生活習慣からくる症状を抱えている人にはそのことを負に考えてもらいたくない。『良かったですね、今がお元気で。これから健康のために何ができるでしょう?』と話してあげたい。」お話は続き

若い人には、食事をつくること以上に「選ぶ力」を持つてほしいと思います。幼いころから家庭で培われた食生活習慣は体に良いバランスの取れた「食事を選ぶという力」を身に付けることに大きく影響します。また、中高年にみられる話題のメタボリック症候群などの不規則な食生活の改善や栄養管理など特定保健指導が義務付けられ、メンバーの何人か管理栄養士としてこの指導にも関わっていらっしゃいます。

出会いと別れ



以前から続けている中高齢者の料理教室は、やがて10年近くになろうとしています。先日、初めて、生徒さんとの悲しいお別れがありました。奥様を亡くされて一人暮らしをされていた男性は、この教室のスタートのころから欠席することなく参加されていました。

最初は「自身のためでしたが、週末ごとに訪ねてきてくれる娘さんご夫妻とお孫さんたちに手作りの料理を用意するために、熱心に通われ、たくさんレシピを宝物にされていました。この方との出会いの中で食の持つもう一つの意味をあらためて実感しました。





私たちの住む町は、宿場町というだけでなく、かつて、戦国時代の誰もが知る歴史の真ん中にもあります。山元さんは生まれたときからずっと草津に住んでいます。そういつた驚くような史実に限らず、言葉や郷土食・行事食など地域に伝わるものを今聞いて残し

「誰かのために料理を学ぶ。」「食べてもらう人がいる。」ということは栄養摂取や味覚の満足感だけではない、『大きな心の栄養・いきがい』になることを教えていただきました。毎週末通われていた娘さん家族とのつながりに感動し、さびしさのなか、この仕事を続ける意味と幸せを再認識されたそうです。

これから…



お講汁ってどんなの？

山元さんの思い出の味である“お講汁”ってどんなの？実は今でも草津のあちらこちらで作られています。集町の方にお講汁について教えてもらいました。

私の住む集町では報恩講、永代経といったお寺詣りの時にお講汁を作ります。

お寺詣りの前日に、当番となっている女性やお寺の奥さんがお米なら5升は炊ける「とんなべ」という大きなお鍋で煮込みます。

この地域では具として「かぶら」「こいも」「油あげ」が入ります。味付けはこんぶだし、お味噌と砂糖、あとは野菜の旨みだけです。これをいったん冷まし、お寺詣りの当日にもう一度温めて、みんなで食べます。

もっぱら寒い時期の料理ですが、多量で時間をかけて煮るせいか、砂糖の甘さがあるせいか、家の味噌汁とはまた違い、とてもおいしいです。特にお年寄りには大変人気があるので、老人クラブなどでも作ったりします。お味噌汁として自宅で作れる家庭もあります。

「お講汁」いかがでしたか？もちろん調理法や風習などは地域によって若干、違ったりしますが、何となくお講汁のこと、分かっただけましたか？ちなみに山元さんの子どもころに食べていたお講汁には、カボチャなんかも入っていたそうです。地域に伝わる風習や風土から生まれる地域の味、いつまでも残ってほしい宝物です。

ておかなければならないと感じているそうです。特に、「自身のおはあさんとの思い出につながる報恩講や尼講中の時に使されたお講汁」について関心をお持ちです。
今はまだ、個々の家庭では伝わっているものもこれからは地域で意識して残していかなければ自然には残っていかないでしょう。
何かの縁に導かれるように栄養士という仕事に出会い、今またその体験や知識を活かす仲間や機会があることを大切に、山元さんの「とらいあんぐる」の2年目の活動がスタートしています。(安澤早苗)



俳句散歩「夏」

夏を彩る、はかなくも、また懐かしい
ホタルを詠んだ俳句を見てみましょう。

(解説 橋詰辰夫)



かりぎぬ
狩衣の袖のうら這うほたる哉

蕪村

作者の蕪村は1716年に今の
大阪市で生まれた、かの有名な俳
人で説明は省きましょう。

さて、この句は、千年も昔の平
安時代に紫式部が書いた、源氏物
語を題材にして、蕪村が詠んだも
のです。

光源氏は、一時愛人であった夕
顔の娘「玉鬘（たまかざら）」を
夕顔の死後、養女として引き取り
ます。

ある時、源氏は狩衣の袖に隠し

ていた数多くのホタルを放って、美し
く成長した玉鬘を兵部卿宮に見せた
いうのです。

柔らかいホタルの光が、妖麗な美女
の横顔を照らし出し艶かしい情景を作
り出しますが、ホタルはゆつくりと飛
び去り美女の顔も、また暗闇に埋もれ
て行きます。

ちなみに玉鬘は源氏物語の中で最も
美しい女性であったと言われています。

草の葉をおちるより 飛ぶ螢かな

芭蕉

蕪村に比べて芭蕉は枯れていて、

淡々とホタルの習性を観察していま
す。草の間に見つけたホタルを手
に取ろうと手を出すと、はらりと落
ちたかと思いきや、ゆるゆらと飛び
去って行ってしまいました。 たっ
た十七文字の中にホタルが飛ぶ草む
らの様子、ほのかなホタルの光、ま
たそれを見る人の心の動きが浮かん

で来ます。

ホタルは成虫になると、 たった十日
前後で子孫を残し死んでいきます。で
すから、我々が「はかない」とか、
「きれい」とか感じていても彼らは命
を賭けて子孫を残す努力を精一杯して
いるんですね。人間は彼らが安心して
飛べる環境を守ってやらなくてはなら
ないですね。

ところで、草津でもホタルを見るこ
とができます。この夏号が出る頃には
もう成虫のホタルは卵を産んで天国に
行っていますが、来年の梅雨時にその
子どもたちが飛び交います。来年は是
非、皆さんもいちど草津のホタルを観
察に出かけてみて下さい。

さて皆さんは、蕪村派ですか、それ
とも芭蕉派ですか？

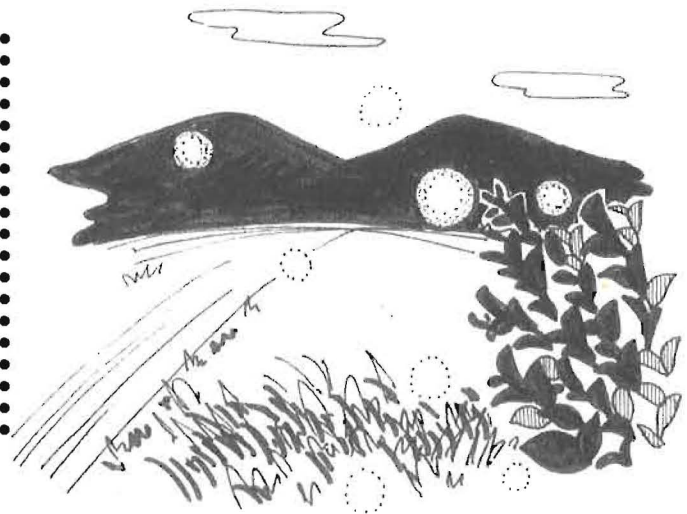


イラスト 大村恵



動植物から学んで
素敵なヒトになろう！

第13回

梅雨の晴れ間にふと思う

文・絵 矢原 功

水を十分に吸い込み、適度に夏日が射すこの季節は植物も元気である。

半夏生（ハンゲショウ）は雑節の1つで夏至から11日目。今年は7月1日であった。

水辺では、わが時とばかりにハンゲショウの葉が白くなって涼しげに目立つが、花は地味。ドクダミの白い花びらに見える部分は葉が変化した苞（ホウ）であり、実際の花は黄色い穂の部分である。どちらもドクダミ科であり、似たトリックが面白い。この時期、山合いの川や谷に沿って見かけるマタタビも花の時期に合わせて葉が白くなっている植物である。

畑では、トウモロコシが茂り、ゴーヤがどんどん伸び、キュウリがたくさん実をつけている。

動けない植物が強い子孫を残すために色々なワザを駆使しているのも興味深い。

植物の雌雄は動物ほどには関心がないかもしれないが、キーウィやイチヨウをはじめ、アオキ、マキなど、木ごとに雄と雌があるもの（雌雄異株）が結構ある。ウリ科の植物では同一個体の中で雄花と雌花を咲かせる（もちろん、雌花しか実をつけない）。一つの花にオシベとメシベを持っている植物でも、他花受粉の方が実なりのいい植物が多い。

トウモロコシは成長してくると頂きに穂が出てくるが、これは雄花の集団である。雌花はあの食べる実の部分にあり、あの長い毛は本来のメシベであるから受粉状態がよければ毛の数だけ実があるわけである。

このトウモロコシ、なかなかのワザ師であり、雄花は雌花より数日早く咲くので、他の株の雌花が受粉し、自分の株の雌花は別の株の雄花から受粉するという浮気性。群植する方がぎっしりと実がつまるのにはこうしたわけがある。

これらは動けない植物が近親交配を避け、長年優秀な子孫を残してきた仕組みと考えられる。

大きく甘い果実のなる果樹、大きく美しい花を咲かせる花卉類、ヒトは努力を重ねて自然界にな



いものを作成してきた。品種改良の結果、子孫を残す能力がないものも多くなり、卵を産み続ける白色レグホーンは抱卵して雛を孵すことさえ知らない。このようなものはヒトが存在しなければ現われなかっただろうし、すぐに地球上から姿を消すことだろう。

今日の人類は何をやっているのだろうか。

賞味期限切れや食べ残し再利用問題、牛肉やウナギの産地偽装。秋葉原の無差別殺傷事件の模倣犯は300件を超えたと聞く。バカなサイト系は、現実と空想の境目を見失った集団の利用が。

ヒトが他の動物より優れているのは、考える能力と言葉と言うコミュニケーション手段の豊富さであると思う。強さも弱さも生きられることもある意味では大きい特徴と考えられる。

今日、優劣や順位を非とする教育背景があるが、動物社会では子ども同士が群れ遊ぶ中で付き合い方や強弱を知り、これ以上は危険ということを知り、色々な尺度や自分の位置づけを知る。

生きるだけなら、さほどの努力もいらず、ときには格差という言葉に甘んじ、自分の考えだけを伝えられるオモチャの溢れる今、平和である反面、携帯メールに夢中で下を向いて横断歩道を渡る危険を知らない世代を見るのが珍しくない。

ヒトとしての適切な思考とコミュニケーションという特性を大切に考えたいものである。

第6回

篤姫と草津宿

大河ドラマ「篤姫」が好評です。薩摩藩分家の姫君が將軍御台所となり、大奥の責任者として幕末の徳川家を支える……。天真爛漫なヒロインの今後の成長が注目されます。

ゆっくり草津 街道物語

篤姫が13代將軍家定に嫁ぐべく薩摩を発ったのは、ペリー来航（嘉永6年6月）の2カ月半後の8月21日。10月2日近衛家に参殿、6日伏見立、江戸到着は10月29日でした。伏見→草津は一日の距離、あるいは国史跡草津宿本陣（七左衛門本陣）の大福帳に記載されているのでは…と調べていただいたところ、嘉永6年（1853）の大福帳に

10月6日 伏見立
薩州御姫君様 御泊 九蔵

と記載されていました。篤姫（19歳）は草津宿に泊まっていたのです。

九蔵とは、江戸時代2軒あった本陣の1軒、田中九蔵本陣。間口は現在の脇本陣の隣から「京八」さんまで、奥行きは一筋東の通りまでありました。七左衛門本陣の大福帳は他家への宿泊や通行も記録されていて貴重な資料となっています。

九蔵本陣は、後に皇女和宮の夫君家茂（上洛時）や、かつての許婚有栖川宮熾仁親王（東征時）も利用しています。明治3年（1870）の本陣廃止後、この地に草津小学校の前身「知新学校」が建てられました。

家定は、天保2年（1841）に迎えた正室鷹司家の有姫が亡くなったため

嘉永2年（1849）一条家の寿明姫を正室に迎えますが僅か6カ月余り後に亡くなります。

篤姫を二度目の正室への話は、虚弱な公家の姫君より武家の娘をとの期待と養父斉彬の幕府内での力も影響したと思われる。有姫、寿明姫とともに七左衛門本陣に泊まっていた、寿明姫お泊りに際しては本陣の屋敷絵図や草津川仮橋の図なども残り、準備の大変さが偲ばれます。

篤姫の婚儀は、ペリーの再来、安政地震、御所火災などで遅れ、3年後の安政3年（1856）に行われました。1年7カ月後家定死去。篤姫は天璋院と称し大奥の責任者となっていきます。後に14代家茂に降嫁した皇女和宮とは様々な確執の末、幕府崩壊に際し二人して徳川家存続に向け、敵となる実家（薩摩藩、朝廷）へ働きかけるのでした。二人は、徳川家存続・江戸無血開城の陰の功労者とされています。

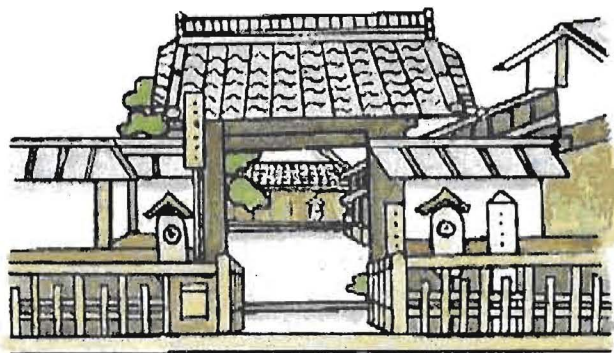
本陣大福帳には皇女和宮（静寛院宮）も文久元年（1861）の降嫁、明治2年（1869）の帰京、明治7年（1874）の東京行が記載されていて、明治7年の記載は180冊ある大福帳最後の1ページとして知られます。また慶応4年（1868）徳川家存続の宮の手紙を

朝廷に届けるため動乱の東海道を上下した土御門藤子も、御上臈 お婦知様”と大福帳に4度記載されているのが確認されています。

東海道中山道が分岐合流する草津宿。雨が降ると水量が増す暴れ川の天井川、分岐を示す道標、本陣やかつての面影を残す民家など…。

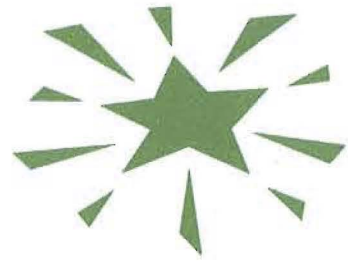
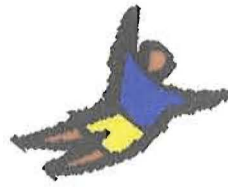
草津を通過した歴史上の人物に思いを馳せながらゆっくりと草津を歩いてみませんか、きっと何かが見えてきます。

（石田はま子）



草津宿本陣 Jan 15, 2005

イラスト 中井徹



平成 20 年度

ひとまち**キラリ**まちづくり活動提案

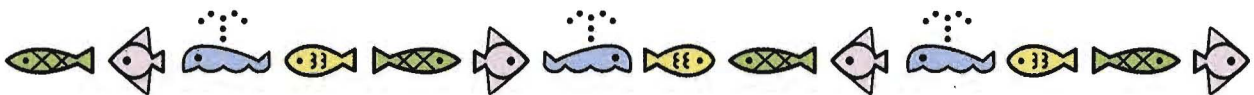
今年もたくさんの「キラリな提案」いただきました！

今年度、提案募集をしました「ひとまちキラリまちづくり活動提案」は、6月30日に締め切らせていただきました。たくさんのキラリと輝くまちづくり提案をいただき、ありがとうございます。

今年度のキラリと輝く18の提案です。活動名と【団体名】を紹介します。

*掲載は「公開ヒアリング」での発表順（予定）です。

- ・輪☆太鼓ドン！（和太鼓で輪を広げよう!!）【南笠飛翔楽鼓隊】
- ・『34年目のユウタカ』…いつまでも“活気ある、美しい町・エコタウン”をめざす
【桜プロジェクト『われら活動隊』】
- ・食から広がる仲間づくり 【とらいあんぐる】
- ・草津あおばなによる商品開発 【滋賀県立湖南農業高等学校 食品化学科3年食品製造2班】
- ・音楽で人の心を暖かく 【音楽倶楽部「フレンズ」合唱班】
- ・まちづくりは人づくりの和(輪)から。和(輪)の絆となる共通の話題づくり【「湖帆の郷」を語る会】
- ・「ふるさとをください」上映活動を、みんなが住みよいまちづくりにつなげよう 【NPO法人きらら】
- ・旧草津川で「地域の庭」づくり 【ガーデンクリエイティブコミュニティにわわ・くさつ】
- ・音楽あふれる街♪草津～子どもたちへの贈り物～ 【WITH】
- ・LEGOブロックで楽しくまちづくり 【草津05倶楽部】
- ・懐メロサロンへいらっしやい。《誰もが遠慮せず、懐メロを大声で歌えば、身も心もスッキリ》
【とっもろうず】
- ・すべての人に読書の喜びを—情報のノーマライゼーションを目指して— 【草津音訳グループさざなみ】
- ・自然派を愛するママ達の出会いと交流の場 【手仕事と自然派おやつ会 ルピナス】
- ・昔の思い出いっぱいの高齢者に自信と希望を 【かさぬいトマトの会】
- ・身近な野草で健康風呂を! 【山田なごみの会】
- ・自然を見直しいきいき生活！環境問題—6%に何かを始めよう！ 【天然自然社 Seisui】
- ・『一期一会』 【市民劇団「シックス」&和太鼓サークル「風林火山」&生バンド「びーず」】
- ・手作りコミュニティマップで自分の住む「まち」を知って、得して、楽しむ。 【Sの輪】



※上記の皆さんは公開ヒアリング(7月12日(土)草津市立まちづくりセンターにて開催)で活動提案の発表があり、審査会を経て5団体(上限)の採択が決まります。

ゆったり、のんびり、じっくり、草津を感じ、草津に触れてみませんか。もしかしたらとても贅沢な時間になるかもしれません。今年度（全8回）の第3弾、4弾の参加者を募集します。どちらかだけの参加もOKです！ふるってご参加ください。

第3回 吹きガラスに挑戦 涼を呼ぶ・My風鈴

草津でガラスの風鈴づくりにチャレンジ。
待ち時間には風鈴につける短冊もつくります。

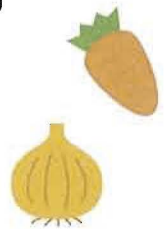
7月27日（土） 10:00～12:30
ガラス工房わかくさ
（若草5丁目・若草郵便局となり）
参加費 1,500円（材料費込）

どちらの講座も準備の都合上、必ず事前にお申し込みください。
お申込み・問合せは、当事業団（565-0477）まで

第4回 ちょっと秋とエコを 秋を楽しむMyエコクッキング

草津の食材を使いながら、秋を楽しめるエコクッキングを楽しみます。自分も地球も健康に！

9月7日（日） 10:00～13:30
まちづくりセンター 調理室
参加費 500円+材料費（未定）



絵と字：中村明雄

「何の花かな？」ごたえ

ビワの花です。

花は11月ごろから咲き始めて正月過ぎまで咲いています。さほど見栄えはしませんが良い香りがあります。一房（花序と言う）に約100個の花が咲きます。昔むかし中国から渡来したと言われていますが、日本のあちこちで野生の樹が見つかっているようです。

種が大きいのが“玉にきず”ですが、最近種なしビワが開発されたそうです。

以前、種や葉をホワイトリカーに漬けたビワ酒がブームになったことがあります。咳止め効果や活性酸素を抑える効果があるそうです。

編集後記

▼中国四川省大地震、宮城岩手内陸地震と相い次いで発生。いつかは起きる、南海-東南海地震に備えなくてはと痛感しています。（橋詰）▼草津には、琵琶湖、草津川、狼川、葉山川、三つ池など水に親しめ、美しい風景がたくさんあります。この夏は大いに水に親しみましょう。（大條）▼今年も「草津でホテルを楽しむ会」のみなさんのおかげでホテルをみることができました。当日はNHKの取材もあって大賑わいでした。（中井）▼日本人にはおむすびとお漬物、そして畳である。その土地でとれた物で生活している。昔からムダのない生活・エコな生活をしてきたのですね。（中村）▼季節を五感で感じるって、ホント楽しいことですね。自分の置かれた環境を楽しむヒントが満載です（矢原）

市民編集ボランティア募集！

コミュニティくさつ編集部
（財）草津市コミュニティ事業団内
〒525-0037
滋賀県草津市西大路町9-6（まちづくりセンター内）
電話 (077) 565-0477
ファックス (077) 562-9340
メール com-com@mx.biwa.ne.jp
URL <http://www.kusatsu.or.jp/community>



再生紙使用
～地球にやさしいまちづくり～